

日本物理教育学会 ニューズレター



教育関連学会連絡協議会主催 公開シンポジウムのご案内

次の日程で、教育委員会と自治体の関係のあり方をテーマにした公開シンポジウムが開催されます。どうぞご参加ください。

- ▶日時：2014年3月15日(土)14：00～17：00
- ▶場所：筑波大学茗荷谷校舎地下1階 多目的講義室
- ▶テーマ：教育委員会をどう考えるか
—学校教育の新しいガバナンスをめぐって—
- ▶詳細：<http://www.jera.jp/教育関連学会連絡協議会>

日本物理学会第69回年次大会の 物理教育関連プログラムのご案内

【領域13（物理教育）講演】

- ▶日時：2014年3月27日(木)～30日(日)
- ▶場所：東海大学湘南キャンパス（AG会場）
- ▶詳細：http://w4.gakkai-web.net/jps_search/2014sp/13.html

【シンポジウム】

- ▶日時：2014年3月27日(木)13：30～17：10
- ▶場所：東海大学湘南キャンパス（CJ会場）
- ▶テーマ：「物理と社会シンポジウム」

物理における次世代育成—裾野を広げるために

- ▶詳細：http://w4.gakkai-web.net/jps_search/2014sp/bs.html

【Jr.セッション】

- ▶日時：2014年3月28日(金)9：00～16：45
- ▶場所：東海大学湘南キャンパス
- ▶詳細：<http://www.gakkai-web.net/butsuri-jrsession/2014/program.html>

近畿支部からの報告

●第22回 物理教育を考える会Ⅱ（物理教育検討会）

昨年の10月6日(日)に京都大学 百周年時計台記念館2階国際交流ホールⅡにおいて、「科目『物理基礎』の現状と課題について」というテーマで開催されました。大学、高校、その他様々な立場から合わせて30名近くの参加がありました。同志社中学校・高等学校の山崎敏昭先生より「物理基礎アンケート調査から見た全国の実施状況の分析」、京都府立福知山高等学校の倉内邦行先生より「科目『物理基礎』を実施しての現

物理教育に関連する イベントカレンダー

- 2014年3月15日(土)
教育関連学会連絡協議会主催
公開シンポジウム
於 筑波大学茗荷谷校舎
- 2014年3月17日(月)～20日(木)
第61回応用物理学会春季学術講演会
於 青山学院大学相模原キャンパス
- 2014年3月27日(木)～30日(日)
第69回日本物理学会年次大会
於 東海大学湘南キャンパス
- 2014年7月7日～12日
GIREP-MPTL 2014
於 Palermo, Italia
<http://www.unipa.it/girep2014/index.html>
- 2014年8月10日(日)
日本物理教育学会評議員会
於 電気通信大学
- 2014年8月11日(月)・12(火)
第31回物理教育研究大会
於 電気通信大学
- 2014年8月18日(月)～22日(金)
物理教育国際会議 ICPE2014
於 Cordoba, Argentina

学会関連イベントは、以下のサイトでも紹介しています
<http://pesj.jp/event>



状と課題について」といった話題提供があったのち、全体討論として、京都大学国際高等教育院 舟橋春彦先生からのコメント『初修物理学（文系向）担当から思うこと』を元に、参加者がそれぞれの立場から意見や提言を交わしていました。

●第42回 物理教育研究集会

昨年の11月23日(土)に大阪教育大学天王寺キャンパス西館第一講義室において開催されました。参加者は40名ほどでした。第30回物理教育研究大会や第12回アジア・太平洋物理会議(APPC12)の報告から始まり、簡易圧力計の試作とその評価、変位電流に関する考察、ICT機器を活用した授業づくりの紹介、「ものづくり教育」の実践例などが、口頭発表で行われました。高校や大学の教員だけでなく、科学館の学芸員の方や大学院生・学部生も発表者として参加しており、様々な意見が交換されていました。

●高校物理基本実験講習会

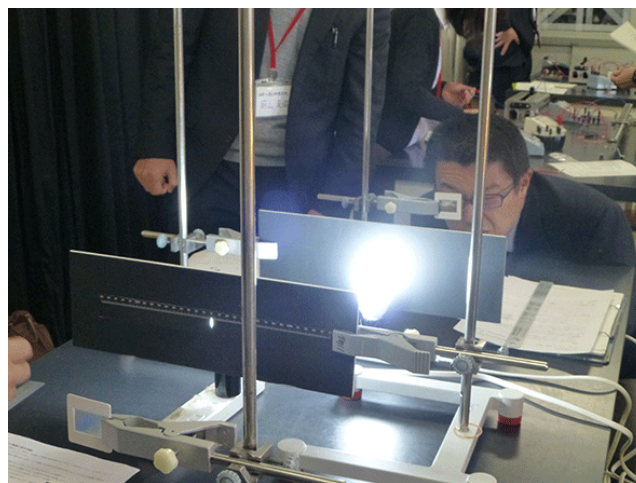
昨年の12月22日(日)、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎において、今年で2回目の「高校物理基本実験講習会」が開催されました。予定していた定員以上の応募があり、37名（高校教員34名（公立22名、私立12名）、学生3名）の参加と2名の見学がありました。

「3力のつり合い」「力学的エネルギー保存の法則」「蛍光灯等を使った光の波長測定」「豆電球・ダイオードの電圧-電流特性の測定」「メートルブリッジを用いた電気抵抗の測定」「電磁誘導・交流回路の演示実験」の6つのテーマを各40分で実施し、6つの班に分かれた参加者が順番に全て体験できるようにして行われました。受講者・実験指導講師ともに熱意にあふれた大変活気ある講習会となり、昼休みには業者2社に実験機器の紹介もしてもらいました。



アンケートでは「気軽に講師の先生に質問できたのがよかった」「定期的にこのような会が開かれることを期待しています」などという意見もみられ、来年も参加したいという感想も数多く聞かれました。

アンケートでは「気軽に講師の先生に質問できたのがよかった」「定期的にこのような会が開かれることを期待しています」などという意見もみられ、来年も参加したいという感想も数多く聞かれました。



参考書・教科書に！ぜひご利用ください

E.F.Redish著・日本物理教育学会監訳「科学をどう教えるか—アメリカにおける新しい物理教育の実践—」（丸善出版）が、大変好評を得て発売されています。詳細は、下記サイトをご覧ください。

http://pesj.jp/doc/per_book2013.pdf

物理教育研究メーリングリスト(ML)が設定されています

この物理教育研究MLは、本会正会員（学生会員を含む）であればどなたでも参加できます。

参加を希望する会員は、subject欄に「per-ml参加申し込み」、本文として、日本物理教育学会会員番号と氏名を記載したe-mailを、MLへの投稿に使用するメールアドレスから以下のアドレス宛てに送付してください。

[per-ml-adm \(at\) pesj.jp](mailto:per-ml-adm@pesj.jp) ただし、(at)は@で置き換えて下さい。

また、このMLの詳細については次のウェブサイトを参照してください。

http://pesj.jp/research/ml_per

特集：支部活動の紹介 (近畿支部)

【各支部の日頃の活動の紹介をする特集を掲載しています。今月号は近畿支部です】

日本物理教育学会近畿支部の活動を、2013年度の活動報告の形でご紹介いたします。

(1)近畿支部総会

毎年、5月上旬頃に開催しています。前年度の活動や会計の報告、今年度の活動予定や予算の審議など議事が進行した後、例年は講師を招いての講演会が行われていたのですが、2013年度は議事のみを執り行いました。

(2)近畿支部理事会

例年、年度当初と重要な行事の後などに4回程度開催されています。2013年度は第1回の理事会において支部役員を選出が行われました。

(3)物理教育を考える会Ⅰ(大学入試問題検討会)

近畿圏の大学入試問題について大学の教員と高校の教員とが意見交換をする場として、兵庫・京都・大阪の3会場に分かれ、5月から6月にかけて開催しています。高校の教員が分担して入試問題を分析・検討した内容を解答例とともに報告し、各大学の担当者が質問に答えたり出題の意図や採点結果に関する情報提供などを行ったりする、という形がとられています。この会での議論が次年度の大学入試に少しでも反映されれば、との思いで毎年続けられています。

(4)物理教育を考える会Ⅱ(物理教育検討会)

考える会Ⅰで議論された内容を踏まえ、毎年違ったテーマで秋頃に開催しています。2013年度は、京都大学百周年時計台記念館にて「科目『物理基礎』の現状と課題」について、というテーマで大学側と高校側の教員で意見交換や物理教育の現状についての報告などがありました。

(5)物理教育研究集会

大学・高校だけでなく科学館などいろいろな機関で行われている教材開発や教育方法の評価、取り組みなどについて、口頭発表の形で触れることができる会で、毎年11月末に開催しています。

(6)物理教育研鑽会

従来、いろいろな施設を見学するなどして見聞を深める会として開催されていましたが、近年は次項の高校物理基本実験講習会と開催時期が重なるため、実施されておりません。

(7)高校物理基本実験講習会

2013年度で2回目の実施となった、新しい取り組みです。この講習会では実験に消極的な教員や、自身が高校在学時に実験をあまり経験しなかった教員、将来教員を目指す学生の方々に高校物理の授業に役立つ基本実験の考え方、装置の扱い方を学んでもらうことで、実験を取り入れた物理の指導法を普及させることを目的としています。2013年度は12月22日(日)に大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎にて開催されました。

(8)「近畿の物理教育第20号」編集委員会

近畿支部会員の活動報告などをまとめた支部年報を年1回発行しています。近畿支部の事業報告のほか、研究集会で発表された内容なども載っています。

以上は近畿支部が主催している行事や組織で、以下は協賛・共催・後援を行っている事業です。

(9)万博公園理科実験野外教室 ▷後援

2013年5月26日(日)に万博公園自然文化園にて開催されました。サイエンスフェスタの野外版として大気圧による「ドラム缶つぶし」や長い導線を使っての「なわとび発電」など、屋内ではやりにくい規模の大きな実験を青空の下で存分に体を動かしながら行い、次世代を担う人間を育成する、という趣旨で始まった催しで、今回で6回目を数えます。

(10)西宮湯川記念こども科学教室 ▷共催

湯川秀樹博士のノーベル物理学賞受賞を記念して西宮市が発足させた事業の一つで、2013年度は9月7日(土)・8日(日)に西宮市総合教育センターにて開催されました。20ほどのブースに分かれ、理科の色々な分野の実験を体験したり工作を行ったりしています。

(11)青少年のための科学の祭典

近畿の6府県(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県)それぞれにおいて、様々な趣向を凝らした内容で夏頃から年末にかけて開催されています。

【事務局より】 ニュースレターで広報したい行事などありましたら、3月15日までに news(at)pesj.jp ((at)は@で置き換えてください)へご連絡ください。編集委員会で掲載の適否を審議し、記述を編集いたします。

発行：日本物理教育学会会長 高橋憲明
編集：日本物理教育学会ニュースレター編集委員会
発行日：2014年3月7日